
BYSTAND R

Hank.Wott

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BYSTAND R

【NZコード】

N6408P

【作者名】

Hank · Wott

【あらすじ】

不穏を呑む平穏。無実を装つ真実。

鎖に繋がれた三枚の^{ドッグタグ}認識票。

隠蔽された過去を匿う、遺された者の追憶。

#〇〇（前書き）

貴方は、俺を置いて逝かないと誓いますか？

【】
白

見詰めることも、目を逸らすことも敵わない。容赦なく視界を侵す、色の無い色。

目の開かない赤子のようになにか必死に手を伸ばして、海のようになにか深く絶対的な闇に怯えている。

その指先が、風に触れた。

確かに【】の世界は「ゼロ」であったが、それはあらゆる存在を引き戻された「ゼロ」ではなかつた。
未だ何も存在していないといつ「ゼロ」。

彼女は、漸く呼吸^{いき}の仕方を思い出した。

指が絡め取つた風を口に含むと、何処か鉄鑄びたような味がする。眩暈のような痺れが脳裏に響いて、その感覚は彼女によく知つたものだ。しかし、それが何故だか今はよく思い出せない。

ふと、【】い視界の端で、鮮やかなパステルカラーが閃いた。どうやら其処に窓があるらしい。完全に興味をそちらに奪われて、あの窓からは何が見えるのだろうかと考えて、彼女は【】い空間に足を踏み入れた。

途端、鮮明な色が空間を塗り潰した。

まるで透明な水に毒を一滴含ませたような、そんな勢いで。

むせ返るよつたな赤色は僅かに温度を持っていた。それが不快で、無意識の内に踏み躡っている。

二歩田を踏み出すと、同じ色の糸が滑った糸を引く。三歩田もまた然り。その度に踏み躡っている。

そうして踏み込むうちに、不意に何かに足を取られた。恐らく、田覚まし時計の音か何かに。傾ぐ身体の支えを求めて、咄嗟に、右手は冷たく濡れた手を掴んだ。

嗚呼

彼女を映す暗い双眸。薄つすらと口許には笑みを浮かべて、逆さまに見上げてくる表情はどこかあどけない。乱雑に切り揃えられた前髪がべつたりと赤く額にこびり付いている。

その有り得ない体温に思わず手放した手は呆気なく乾き始めていたシーツの海に落ちた。例によつて無駄にはだけられたワイヤーシャツの胸元には、引き千切られて繋がる先を失くした細い鎖チエーンがくすんだ鉄色の粒を散らしていた。

嗚呼、キミハ

そ、つと前髪を払い除けて微笑む。田覚まし時計は鼓膜の裏で、未だしぶとく鳴り響いているようだ。その音につつかり田覚めてしまわないように、彼女はそ、つと眉を潜めた。

嗚呼、キミハ、死ンデシマツタノダネ

小さく、誰かが呟いた。
或いは、彼女が呟いた。

確かに此の世界は「ゼロ」になつたが、それはあらゆる存在を引き

死ぐされた「「ゼロ」ではなかつた。

たつた一つが失われてしまつたといつ「ゼロ」。

見詰めることも、目を逸らすことも敵わない。容赦なく視界を侵す、
キミの無い色。

目の開かない赤子のよつに必死に手を伸ばして、海のよつに深く絶
望的な闇に怯えている。

その指先が、首に触れた。

【赤】

色の赤い。

#〇〇(後書き)

過去編第4弾、始まるよー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6408p/>

BYSTAND R

2011年1月4日03時25分発行